

1 医師

令和6年末現在の医師の届出数は2,143人で、前回調査時の令和4年から10人減少した。業務の種類別にみると、医療施設の従事者は2,014人で前回に比べて10人減少し、介護老人保健施設の従事者は30人で前回と比べ5人減、医療施設・介護老人保健施設・介護医療院以外の従事者は54人で前回に比べ6人減、その他の者は36人で前回に比べ7人増であった（表1）。

表1 業務の種類別にみた医師数及び構成割合

	医 師 数		増減数 (人)	構成割合(%)	
	令和6年	令和4年		令和6年	令和4年
総 数	2,143	2,153	△ 10	100.0	100.0
医療施設の従事者	2,014	2,024	△ 10	94.0	94.0
病院の従事者	1,386	1,400	△ 14	64.7	65.0
病院（医育機関附属の病院を除く）の開設者 又は法人の代表者	28	30	△ 2	1.3	1.4
病院（医育機関附属の病院を除く）の勤務者	1,007	1,014	△ 7	47.0	47.1
医育機関附属の病院の勤務者	351	356	△ 5	16.4	16.5
臨床系の教官又は教員	169	179	△ 10	7.9	8.3
臨床系の教官又は教員以外の従事者（大学院生含む）	182	177	5	8.5	8.2
診療所の従事者	628	624	4	29.3	29.0
診療所の開設者又は法人の代表者	434	438	△ 4	20.3	20.3
診療所の勤務者	194	186	8	9.1	8.6
介護老人保健施設の従事者	30	35	△ 5	1.4	1.6
介護老人保健施設の開設者又は法人の代表者	6	5	1	0.3	0.2
介護老人保健施設の勤務者	24	30	△ 6	1.1	1.4
介護医療院の従事者	9	5	4	0.4	0.2
介護医療院の開設者又は法人の代表者	2	1	1	0.1	0.0
介護医療院の勤務者	7	4	3	0.3	0.2
医療施設・介護老人保健施設・介護医療院以外の従事者	54	60	△ 6	2.5	2.8
医育機関の臨床系以外の勤務者（大学院生含む）	16	17	△ 1	0.7	0.8
医育機関以外の教育機関又は研究機関の勤務者	6	6	-	0.3	0.3
行政機関又は保健衛生施設の従事者	32	37	△ 5	1.5	1.7
行政機関の従事者	18	14	4	0.8	0.7
行政機関を除く保健衛生施設の従事者	8	15	△ 7	0.4	0.7
産業医	6	8	△ 2	0.3	0.4
その他の者	36	29	7	1.7	1.3
その他の業務の従事者	4	1	3	0.2	0.0
無職の者	32	25	7	1.5	1.2
不 詳	-	3	△ 3	-	0.1

主たる診療科名別にみた医療施設従事医師数は、内科が最も多く 427 人で 21.2%を占める。ついで整形外科が 125 人で 6.2%、精神科が 116 人で 5.8%、臨床研修医が 113 人で 5.6%、消化器内科（胃腸内科）が 104 人で 5.2%を占める。令和 4 年と比較すると糖尿病内科（代謝内科）や泌尿器科などが増加した。一方、最も減少したのは内科、外科、の 12 人減となっている（表 2）。

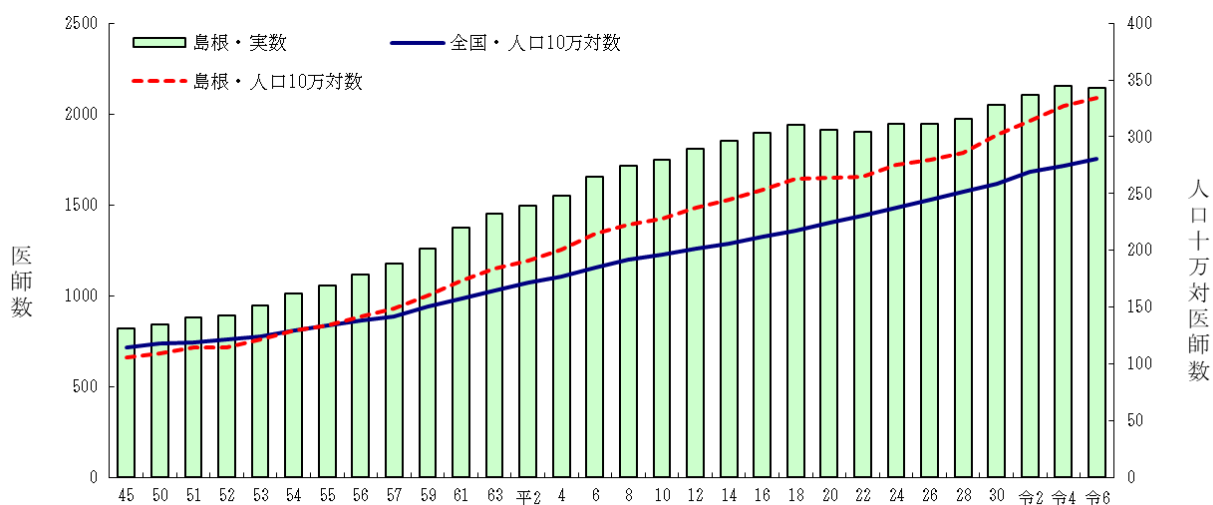
表 2 診療科（主たる）名別にみた医療施設従事医師数

	令和6年		令和4年		増減数 (人)
	人数	構成割合	人数	構成割合	
医 師 数	2,014	100.0	2,024	100.0	△ 10
内 科	427	21.2	439	21.7	△ 12
呼 吸 器 内 科	47	2.3	49	2.4	△ 2
循 環 器 内 科	68	3.4	65	3.2	3
消化器内科（胃腸内科）	104	5.2	107	5.3	△ 3
腎 臓 内 科	20	1.0	21	1.0	△ 1
脳 神 経 内 科	49	2.4	47	2.3	2
糖尿病内科（代謝内科）	42	2.1	36	1.8	6
血 液 内 科	14	0.7	14	0.7	-
皮 膚 科	49	2.4	50	2.5	△ 1
ア レ ル ギ ー 科	-	-	-	-	-
リ ウ マ チ 科	12	0.6	12	0.6	-
感 染 症 内 科	2	0.1	2	0.1	-
小 児 科	100	5.0	102	5.0	△ 2
精 神 科	116	5.8	117	5.8	△ 1
心 療 内 科	6	0.3	3	0.1	3
外 科	64	3.2	76	3.8	△ 12
呼 吸 器 外 科	15	0.7	13	0.6	2
心 臓 血 管 外 科	21	1.0	19	0.9	2
乳 腺 外 科	18	0.9	16	0.8	2
気 管 食 道 外 科	-	-	-	-	-
消化器外科（胃腸外科）	33	1.6	31	1.5	2
泌 尿 器 科	53	2.6	49	2.4	4
肛 門 外 科	-	-	-	-	-
脳 神 経 外 科	34	1.7	35	1.7	△ 1
整 形 外 科	125	6.2	125	6.2	-
形 成 外 科	18	0.9	19	0.9	△ 1
美 容 外 科	1	0.0	1	0.0	-
眼 科	71	3.5	69	3.4	2
耳 鼻 い ん こ う 科	41	2.0	44	2.2	△ 3
小 児 外 科	6	0.3	4	0.2	2
産 婦 人 科	64	3.2	62	3.1	2
産 科	-	-	-	-	-
婦 人 科	5	0.2	9	0.4	△ 4
リハビリテーション科	35	1.7	33	1.6	2
放 射 線 科	52	2.6	53	2.6	△ 1
麻 酔 科	70	3.5	72	3.6	△ 2
病 理 診 断 科	16	0.8	19	0.9	△ 3
臨 床 検 査 科	3	0.1	3	0.1	-
救 急 科	27	1.3	30	1.5	△ 3
集 中 治 療 科	9	0.4	10	0.5	△ 1
臨 床 研 修 医 科	113	5.6	110	5.4	3
全 科	9	0.4	6	0.3	3
そ の 他	52	2.6	47	2.3	5
不 詳	3	0.1	5	0.2	△ 2

(注) 集中治療科は令和 4 年調査から追加された分類項目

令和6年の人口10万対医師数は333.8人で、前回の327.2人に比べて6.6人上昇した。人口10万対医師数は年々上昇傾向にあり、昭和54年までは全国を下回っていたが、その後は上回って推移している（図1）。

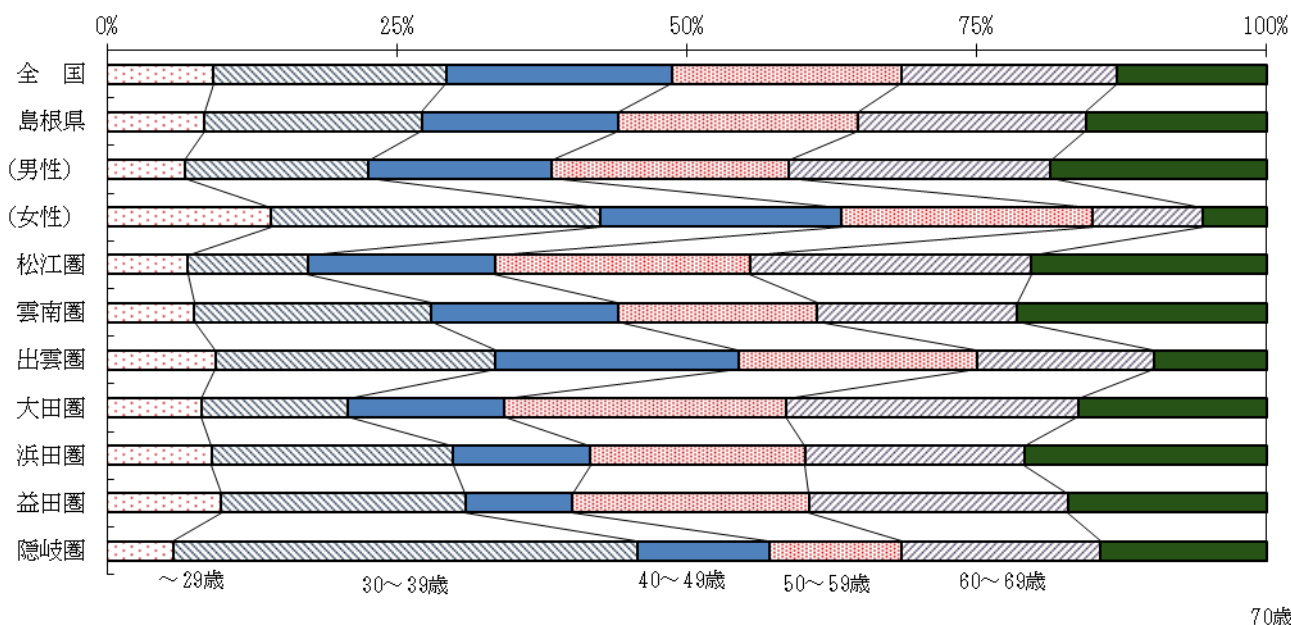
図1 医師数及び人口10万対医師数の年次推移



医師を年齢階級別に見ると、県全体では50歳代が20.7%、60歳代が19.6%と半数近くを占めている。全国の割合と比べると、20歳代から40歳代までの割合が低くなっている。男女別に見ると、男性は60歳代が最も多く22.6%で、ついで50歳代が20.4%を占める。女性は30歳代が最も多く28.3%で、ついで50歳代が21.7%を占める。

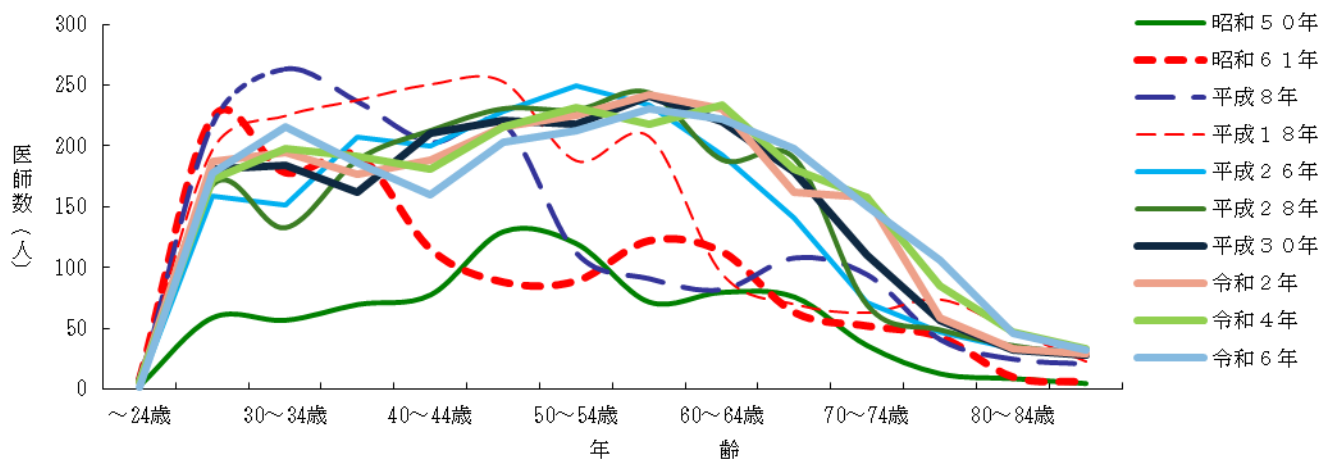
2次医療圏別に見ると、隠岐圏及び出雲圏で30歳代の割合が高い。50歳以上の割合は松江圏が最も高く66.6%を占めており、ついで大田圏が65.8%を占める（図2）。

図2 医師の年齢別割合



医師の年齢構成の年次推移を10年ごとにみると、昭和50年は45～49歳、昭和61年は25～29歳、平成8年は30～34歳、平成18年は45～49歳が最も多い年齢階級となっている。令和6年をみると最も多い年齢階級は55～59歳となっている（図3）。

図3 医師の年齢構成の年次推移



2 歯科医師

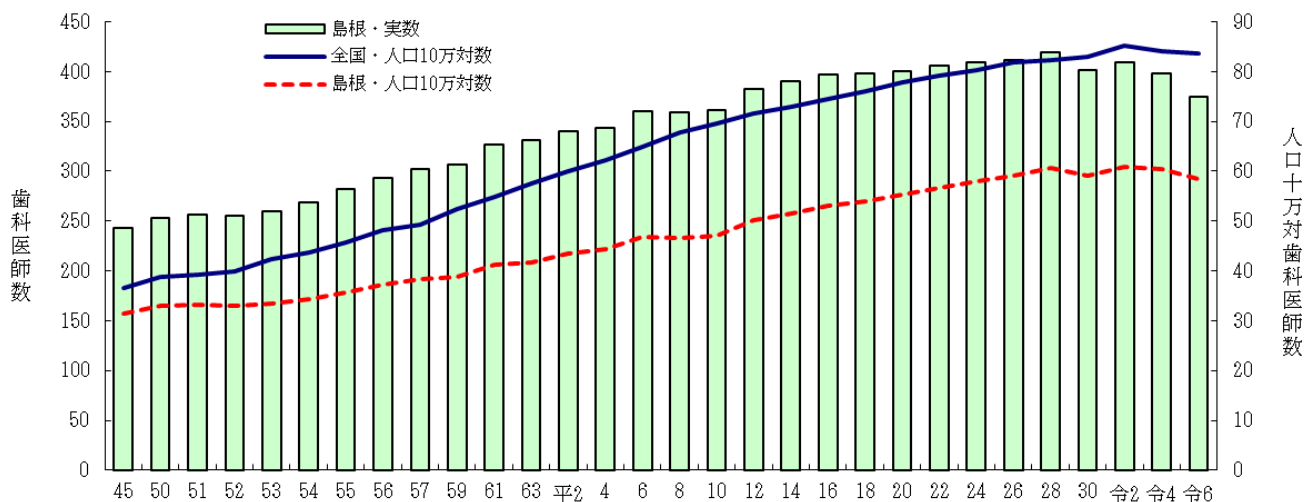
令和6年末現在の届出歯科医師数は375人で、前回調査時の令和4年から23人減少した。業務の種類別にみると、ほとんどが医療施設の従事者で94.7%を占める。うち診療所の開設者又は法人の代表者が57.3%で、診療所の勤務者が27.5%である。令和4年と比べると、病院の従事者は5人減少（構成割合は0.7%減少）、診療所の従事者は16人減少（構成割合は0.9%増加）した（表3）。

表3 業務の種類別にみた歯科医師数及び構成割合

	歯科医師数		増減数 (人)	構成割合(%)	
	令和6年	令和4年		令和6年	令和4年
総 数	375	398	△ 23	100.0	100.0
医療施設の従事者	355	376	△ 21	94.7	94.5
病院の従事者	37	42	△ 5	9.9	10.6
病院（医育機関附属の病院を除く）の開設者 又は法人の代表者	-	-	-	-	-
病院（医育機関附属の病院を除く）の勤務者	26	27	△ 1	6.9	6.8
医育機関附属の病院の勤務者	11	15	△ 4	2.9	3.8
臨床系の教官又は教員	3	4	△ 1	0.8	1.0
臨床系の教官又は教員以外の従事者（大学院生含む）	8	11	△ 3	2.1	2.8
診療所の従事者	318	334	△ 16	84.8	83.9
診療所の開設者又は法人の代表者	215	230	△ 15	57.3	57.8
診療所の勤務者	103	104	△ 1	27.5	26.1
介護老人保健施設の従事者	1	-	1	0.3	-
医療施設・介護老人保健施設以外の従事者	4	6	△ 2	1.1	1.5
医育機関の臨床系以外の勤務者（大学院生含む）	1	2	△ 1	0.3	0.5
医育機関以外の教育機関又は研究機関の勤務者	-	-	-	-	-
行政機関又は保健衛生施設の従事者	3	4	△ 1	0.8	1.0
行政機関の従事者	3	3	-	0.8	0.8
行政機関を除く保健衛生施設の従事者	-	1	△ 1	-	0.3
その他の者	15	16	△ 1	4.0	4.0
その他の業務の従事者	3	4	△ 1	0.8	1.0
無職の者	12	12	-	3.2	3.0
不詳	-	-	-	-	-

令和6年の人口10万対歯科医師数は58.4人で令和4年の60.5人に比べて2.1人減少した。年次推移をみると、平成28年まで増加傾向であり、その水準を維持している。全国平均（83.7人）と比較すると低くなっている（図4）。

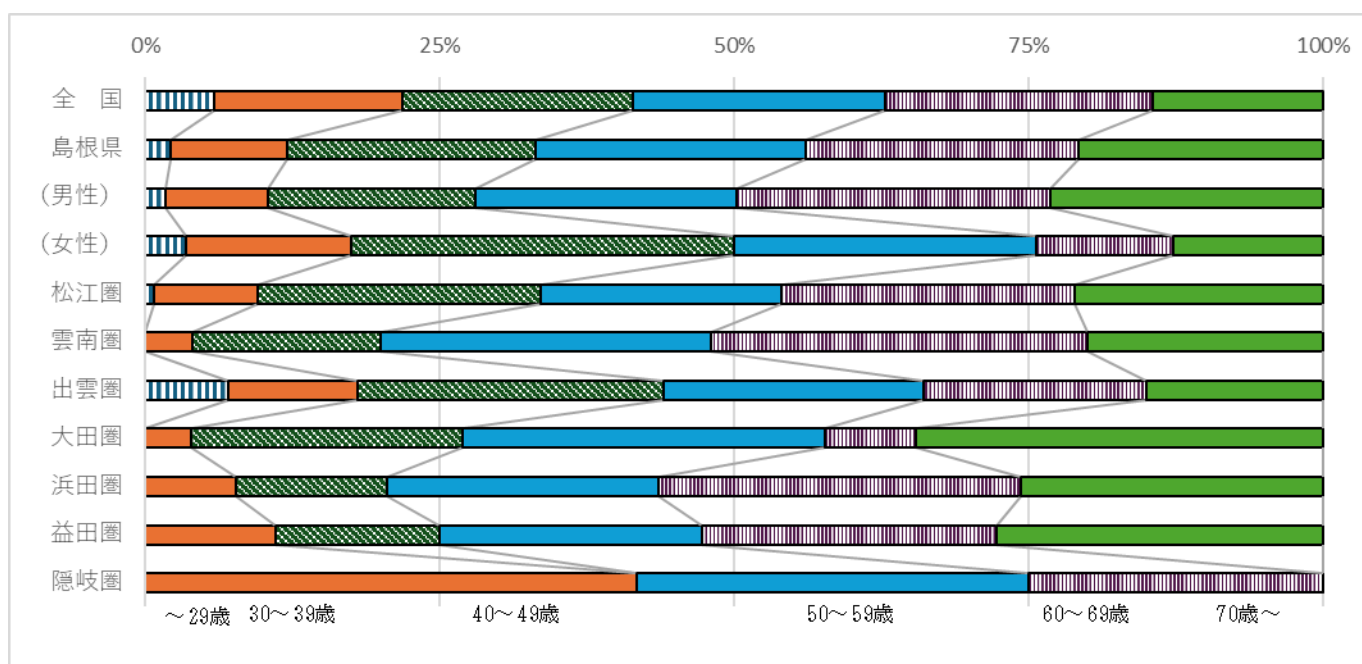
図4 歯科医師数及び人口10万対歯科医師数の年次推移



歯科医師の年齢別割合をみると、全国に比べて20歳～30歳代の占める割合が低く、40歳～70歳代～の占める割合が高くなっている。男女別に比べると、女性は20歳～40歳代が50.0%を占めており、男性は60歳以上が49.8%を占めている。

2次医療圏別にみると、雲南圏、浜田圏、益田圏では60歳以上が50%を超えている。（図5）。

図5 歯科医師の年齢別割合



3 薬剤師

令和6年末現在の届出薬剤師数は1,433人であり、令和4年から18人減少した。業務の種類別にみると、薬局の従事者が891人（構成割合は62.2%）で、令和4年から17人減少した。ついで、病院・診療所の従事者が343人（構成割合は23.9%）となっており、令和4年から4人増加している。薬局及び病院・診療所の従事者は全体の86.1%を占めた（表4）。

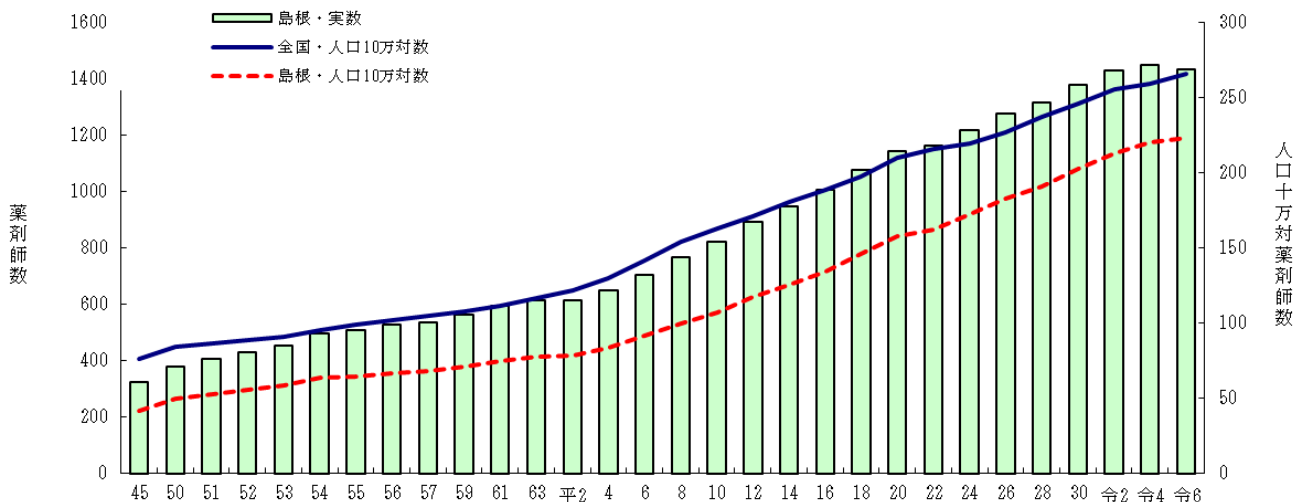
表4 業務の種類別にみた薬剤師数及び構成割合

	薬剤師数		増減数 (人)	構成割合(%)	
	令和6年	令和4年		令和6年	令和4年
総 数	1,433	1,451	△ 18	100.0	100.0
薬局の従事者	891	908	△ 17	62.2	62.6
薬局の開設者又は法人の代表者	105	110	△ 5	7.3	7.6
薬局の勤務者	786	798	△ 12	54.8	55.0
病院・診療所の従事者	343	339	4	23.9	23.4
病院・診療所で調剤・病棟業務に従事する者	333	328	5	23.2	22.6
病院・診療所でその他の業務に従事する者	10	11	△ 1	0.7	0.8
介護保険施設の従事者	14	15	△ 1	1.0	1.0
介護老人保健施設の勤務者	10	11	△ 1	0.7	0.8
介護医療院の勤務者	4	4	-	0.3	0.3
大学の従事者	7	9	△ 2	0.5	0.6
大学の勤務者（研究・教育）	6	7	△ 1	0.4	0.5
大学院生又は研究生	1	2	△ 1	0.1	0.1
医薬品関係企業の従事者	49	63	△ 14	3.4	4.3
医薬品製造販売・製造業（研究・開発・営業その他）	12	18	△ 6	0.8	1.2
医薬品販売業（店舗販売業）	15	22	△ 7	1.0	1.5
医薬品販売業（卸売販売業）に従事する者	22	23	△ 1	1.5	1.6
衛生行政機関又は保健衛生施設の従事者	31	28	3	2.2	1.9
その他の者	98	89	9	6.8	6.1
その他の業務の従事者	18	21	△ 3	1.3	1.4
無職の者	80	68	12	5.6	4.7
不 詳	-	-	-	-	-

（注）介護保険施設の従事者は平成30年調査から追加された分類項目

令和6年の人口10万対薬剤師数は223.2人で、令和4年の220.5人に比べて2.7人増加した。年次推移をみると年々上昇しており、令和6年は令和4年に引き続き220人を上回ったものの、全国平均（265.8人）と比べると低くなっている（図6）。

図6 人口10万対薬剤師数の年次推移



薬剤師の年齢別割合をみると、最も多いのは30歳～39歳の25.1%、ついで40歳～49歳の25.0%、50歳～59歳の14.0%となっている。

2次医療圏別にみると、20歳～30歳代が最も多いのは出雲圏の47.4%で、ついで隠岐圏で46.2%を占める。浜田圏では50歳以上の占める割合が49.7%となっている（図7）。

図7 薬剤師の年齢別割合

